



県立多治見病院



多治見市民病院

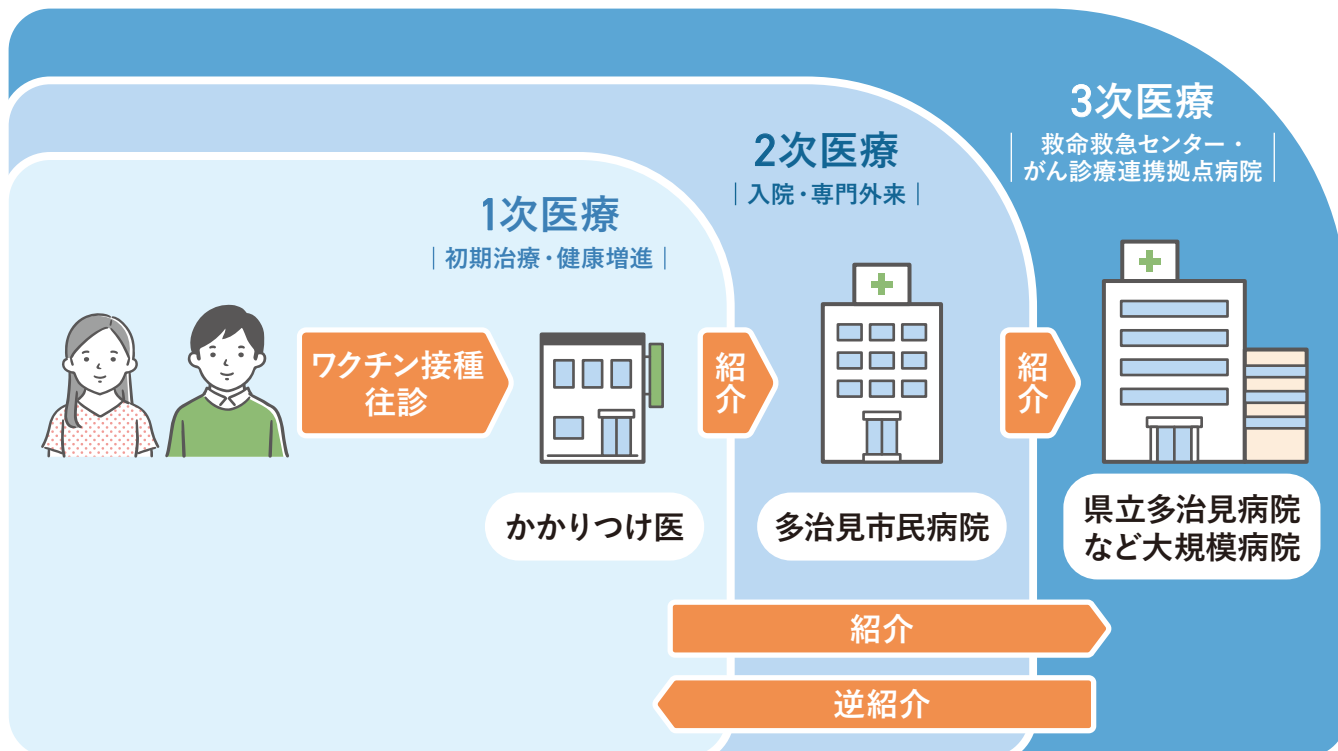
みんなで守る地域医療

— 連携強化、医療体制の充実を —

多治見市には、1次医療としての役割を持つかかりつけ医(個人医院やクリニック)、2次医療の役割を持つ市民病院、3次医療の役割を持つ県立多治見病院が立地しています。市民が安全安心な医療を受けるために、市は関係機関との連携を強化し、さらなる医療体制の充実を目指していきます。

また、私たち自身も、まずは近くのかかりつけ医などの受診を心掛けることによって地域の医療体制を守るにつながっていきます。

問 保健センター ☎ 23-5025





県立多治見病院
近藤理事長兼院長 × 高木市長 × 医師会
加納会長 × 市民病院
今井院長

3次医療
1次医療
2次医療

— 対談 1 —

医療体制を守るために

多治見市の医療を支える医師会、市民病院、県立多治見病院の先生に、
これからの市の医療体制の充実についてお話を伺いました。

それぞれの医療機関の役割を知る

市長 多治見市には1次医療機関（以下、1次）、2次医療機関（以下、2次）、3次医療機関（以下、3次）があり医療体制としては充実しています。この医療体制をしっかりと守っていく

ために市民の皆さんに3つの医療機関の役割を知っていただくことが重要です。

加納 主に、1次は「かかりつけ医」で帰宅可能な患者、2次は「市民病院」で入院や手術が必要な患者、3次は「県立多治見病院（以下、県病院）」で「かかりつけ医」からの紹介患者や

中等症以上の救急患者を受け入れます。それぞれの医療機関で役割がありますが、以前は上手く機能していなかったように思います。

今井 以前は、この医療体制が確立されておらず、軽症でも県病院を受診するような状態で、県病院の先生方も疲弊していました。市民病院には市民病院の役割があるので、市民病院で診ることが出来る患者は積極的に受け入れるなど改善してきました。

近藤 県病院も、最近少し余裕が出てきました。救急患者は3年前は1万人だったのが今は7000人程度になっています。その結果、重症患者をしっかりと診ることができるようになりました。

市長 まずは1次医療機関であるかかりつけ医を受診する。そういったことで医療を分散化させることができ、医師の負担も軽減されるということですね。

今井 軽症だと思っただけでかかりつけ医を受診しても、急変することもあります。そういう時には市民病院や、県病院を紹介するなどの連携がとれるようになっていきます。

休日夜間当番医制度の実施

加納 多治見市には71の診療所がありその中でも54の施設が当番制で夜間診療をしています。すぐに病院にかかるのではなく、軽い症状であれば休日夜間当番医を受診していただきたいです。

市長 多治見市では、医師会、市民病院、歯科医師会、薬剤師会と連携して休日夜間当番医制度を実施しており、休日・夜間を問わず、救急体制も整っています。



岐阜県立多治見病院
理事長兼院長 近藤 泰三 氏



多治見市医師会 会長 加納 忠行 氏



多治見市長 高木 貴行



多治見市民病院 院長 今井 裕一 氏

人材不足への対応

市長 医療機関における課題はどのようなことがありますか。

加納 どの医療機関も、人材不足が心配です。医師、看護師、介護士など全体として人を育てていけないといけないと感じています。

近藤 人材不足に関して、県病院では病床を減らして対応しています。休暇を取れる環境にしておかないと看護師が疲弊してしまいます。また、高度な医療を行い、入院期間を短縮することで医師の負担を軽減するようにしています。

今井 市民病院は、6年前には医師数が20名弱でしたが、現在は、約40名に増加しています。夜間当直帯は、病棟での対応もあり、夜間・深夜帯は限界があります。その点を県病院にサポートしてもらっています。



継続的な連携強化を

市長 この医療体制を守っていくための取り組みや今後の展望を聞かせてください。

近藤 県病院では、2024年4月に新中央診療棟を開設します。東濃圏域で初めて「手術支援ロボット」や「TAVI（大動脈弁狭窄症カテーテル治療）などができるハイブリッド手術室」を導入するなど、高度急性期や急性期の医療機能を拡充します。また、これに先立ち本年から造血幹細胞移植（骨髄移植）を始めます。骨髄移植



県立多治見病院新中央診療棟 完成イメージ図

は白血病や悪性リンパ腫の治療で、骨髄移植ができる病院は岐阜県内では岐阜市民病院に次いで2カ所目です。

今井 市民病院では4月から救急総合診療部の医師を増やし、2人体制としました。救急医療にも力を入れていきます。

近藤 救急搬送に関しても、最近では、救急隊とも上手く連携がとれており、夜間は県病院に搬送されることも多くあります。

今井 逆に県病院が無理であれば市民病院に搬送されることもあるなど、救急隊も含めてお互いコミュニケーションをとって受け入れが出来るようになってきました。

加納 1次、2次、3次の医療体制は救急も含めて連携が取れてきています。

今後は、退院後のケアが大事になってきます。在宅医療のクリニックを増やすなど、在宅医療を広めていくこと、在宅でケアできるシステムを整えていくことが医師会としての役目であると考えています。

市長 これからも、市民が安心安全に生活していくうえで安定した医療を提供していくために、市も含めて医師会、市民病院、県病院などと引き続き連携し、この医療体制を守っていきます。





Q 在宅医療とは
どのようなものですか

今井 多治見市では65歳以上の高齢者が3.3万人います。高齢者の3分の1が在宅介護を希望しているという統計があり、多治見市では約1万人が在宅を希望しているということに

ポプラ在宅クリニック
加藤院長

医師会
加納会長

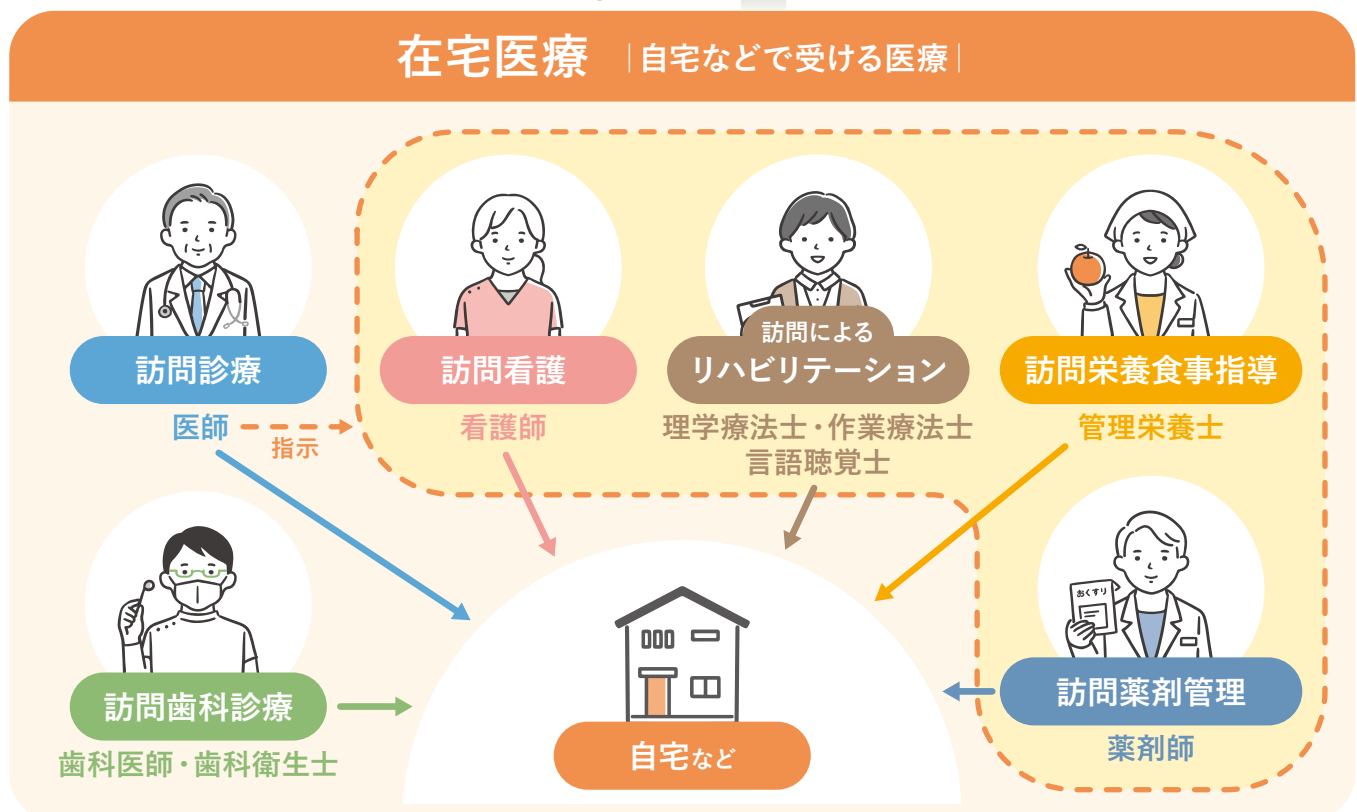
市民病院
今井院長

— 対談 2 —

在宅医療を選択肢の一つに

今後、市の医療体制を守っていくとともに重要となってくるのが「在宅医療」です。在宅医療に特化した診療を行っているポプラ在宅クリニックの加藤院長を交えて在宅医療についてお話を伺いました。

なります。このような現状から、今後、在宅を希望している人の要望にどのように応えることができるか考えていく必要があります。
加納 病気や障害を抱えていても病院ではなく、住み慣れた家での生活を希望する患者や家族の思いを実現するものが在宅医療です。





いまい ひろかず
多治見市民病院 院長 今井 裕一 氏

問題点は、在宅医療とはどういうものかを正確に知っている人が、医師も患者も少ないのではないかとということ。在宅医療とはどういうものか、市内で利用できるクリニックがどのくらいあって、いかに利用しやすいものであるかということを知らせることが大事です。

市内には、訪問看護ステーションが16、ヘルパーステーションが48、在宅医療を行っている診療所は29あります。このようにハード面では整っていると言えます。あとは、仕組みを理解して上手に使ってほしいです。

在宅医療は多職種連携で成り立っているので、多職種をどのように連携させるかが重要です。病院だけに負担がいかないようにし、自宅で生活できるように上手くやっていくことが市としても課題です。

Q どのような体制で実施していますか

加藤 利用者は基本は通院困難であることが要件です。主に利用する人は今まで病院に通院していたのが通院できなくなった方や、退院するときに通院できないという方で、病院の連携室やケアマネージャーから直接相談を受けています。

今井 市民病院では、直接的には在宅医療には関わっていません。しかし、最期を自宅で迎えたい方で医療が必要な方については、退院の時に医療連携室でご本人・家族の意向を聞いて、在宅医療を希望する場合は、在宅医療のできるクリニックにつなげています。このような連携を行っています。

加納 病院や施設に居たくても在宅に戻らなければいけない人もいます。国としては在宅医療を進めていく方針です。

Q 病院と在宅医療との連携はありますか

加藤 岐阜県医師会が運営する事業として「在宅療養あんしん病床登録事業」があります。病院とかかりつけ医が連携し、在宅療養者が体調を



かのう ただゆき
多治見市医師会 会長 加納 忠行 氏

崩して自宅での対応が困難となったときでも、スムーズに病院で受診し必要に応じて入院ができるシステムです。岐阜県医師会の「はやぶさネット」という医療介護福祉の情報サイトに公開されていますがあまり知られていません。制度はあっても使われていないというのが現状です。

今井 入院が必要なら在宅医療を行っているかかりつけ医と連絡を取って入院させていますが、「在宅療養あんしん病床登録事業」などの制度は周知されていません。

加納 病院、かかりつけ医が制度を知っていることが大事です。

Q 今後の方向性について考えをお聞かせください

今井 困ったときにどういった医療を受けられるかなど、アプローチの仕方をわかりやすく伝えることが必要です。

加藤 団塊の世代が75歳以上を迎える、2025年問題が差し迫っています。在宅医療という選択肢を知らない人が多いため、利用者や病院に情報を伝えることが重要です。医療は機能分化しなければいけません。勤務医も知らない人が多いので、病院の中の教育も必要ではないでしょうか。

加納 病院との連携だけでなく、社会福祉協議会や包括支援センターなど支援体制を上手に利用できるようにし、在宅医療を広めていきたいと考えています。



かとう じょうじ
ポプラ在宅クリニック 院長 加藤 譲司 氏